

Navi.2 スポーツ・サッカー大好きっ子を 育てよう

キッズゾーン 大人立ち入り禁止！

アメリカ キッズゾーン

アメリカには、ユース関連の加盟団体が複数存在しますが、その中のひとつがAmerican Youth Soccer Organization(AYSO)です。AYSOでは、「キッズゾーン」と呼ばれるプログラムを展開しています。これは、近年、ユーススポーツに関わるプレーヤーやコーチ、親のネガティブな行動、暴力行動がメディアに採り上げられることが増えてきたことを受けて、この傾向に歯止めをかけるために開始されたプログラムです。

「キッズゾーン」は、サイドライン上のネガティブな行動を排除することを目的とし、図のようなサインやバッジを使ってキャンペーンを行っています。図のサインには、「注意！あなたはキッズゾーンに立ち入ろうとしていません」とあります。

以下の注意書きに従うのであればウェルカム、従えないのであれば、お引取り願いたい、という内容になっています。



- ・キッズがNO.1
- ・勝つことでなく楽しみがすべて
- ・ファンは応援するのみ。コーチはコーチに任せる
- ・怒りにまかせてどならない
- ・ボランティアのレフェリーを尊重する
- ・のしらない
- ・禁煙
- ・帰りにゴミを残さない
- ・子どもによい原本となる

大人のための誓約書や行動規範、また、指導やサポートのためのさまざまな情報が用意されています。

AYSOでは、U-6のゲームのガイドラインには、「順位を記録しないこと、結果を記録しないこと」と明記されています。また、各試合のはじめと終わりに、プレーヤーだけでなく、コーチ、親も握手をすること、とされています。JFAのガイドラインでも、この考え方を採用しています。



Navi.2

スポーツ・サッカー
大好きっ子を育てよう

子ども自身の夢

あなたの夢ではありません。



自分の子どもに大きな期待をしてしま
うのは誰でも当たり前です。

また、自分にできなかつた夢を託して
しまうようなこともあります。

自分が苦労したから、自分のようにな
ってほしくないから、せめて子どもには
…、といった、子どもを思う気持ちから
かもしれません。それでついつい子ど
もにプレッシャーをかけてしまうことも
あります。

「身代わりアスリート」という言葉が
あります。

自分が果たせなかつた夢を子どもに託
し、過度に期待するあまり、子どもにプ
レッシャーをかけてしまうことを指しま
す。その結果、子どもは親を喜ばせるた
め、親をがっかりさせないために、プレ
ッシャーをうけてしまうのです。
しかし、子どもには子どもの夢があり
ます。

周囲から期待をされることは、大きな
励みにもなります。期待されなければ、
がんばる気持ちも起きなくなってしまう
かもしれません。

でも、「期待にこたえる」ことを目標
にしてしまうと、子どもは時としてつら
くなります。自信満々ががんばれるときは、
周囲の期待は力となるでしょう。しかし、
往々にして、過度の期待はプレッシャー
になります。自分に期待される像と、現

実の自分とのギャップに苦しむことにな
ります。

元気に熱中している子どもたちにも、
気持ちに波はあります。時には「やりた
くない」「休みたい」と思うこともあり
ます。それをなかなか言い出せずに悩ん
で無理する子どもも多いのです。子ども
が大人の期待や気持ちを思っただけで無理をす
ることは、お互いのために良いことでは
ありません。

気持ちが弱っているときに励ますこと
は大切です。少しがんばって乗り越える
ことも大切です。しかし、無理がひずみ
となり、結局ドロップアウト※につなが
るようなことになっては残念です。

余裕を持って見てあげてください。ま
たやりたくなくなるまで休んでもいい。他に
やりたいことができたらやってみてもい
い。他のことと一緒にやってみてもいい。
戻ってきたら戻ったら戻ってくればい
い。そこで休むことは、罪悪感を感じる
ようなことではありません。

最終的に楽しく長く続けていけること
が大切です。

生涯サッカーを楽しむかかわり続ける
人を増やしたい。それは私たちの大きな
願いです。

※いやになって途中でやめてしまうこと

Navi.2

スポーツ・サッカー
大好きっ子を育てよう

ゆっくり 見守りましょう

子どもたちはサッカーが楽しく、大好きです。



スポーツをしていると、いろいろな場面
で勝ったり負けたり、選ばれたり選ば
れなかったりすることがあります。それ
がスポーツの特徴です。

ちよっとしたセレクションで選ばれ
ると、あなたも将来が全て保障された
ように思うのは大きな勘違いです。

親や指導者ばかりでなく、
場合によってはメディア
までが過剰に反応し
大騒ぎをしてしまう
ケースがあります。
そのことが、子ども
もにとって大きな
プレッシャーにな
ります。

またその反対に、そ
の周囲で、「うちの子には
見込みがない」と見切りを
つけて、さっさとサッカーをやめさせて他
のことを始めさせるような極端な対応を
するケースもあります。

自分の子どもがどうなのか、見込みが
あるのかないのか、気になる気持ちは当
然です。

また、早く確実な道をつくってあげ
たい、という親心もあるかもしれませ
ん。実際のところは、大人が早く安心
したいのかもしれない。

しかし、低い年齢であれば、その先の
可能性は不確定。早いうちには何も決め

つけることなど決してできません。
それを大人が勝手に見切って、やめさ
せてしまうなんて、無茶なことではあり
ませんか？

やるのは子ども。主役は子ども。大人
が決めつけることではありません。

また、低い年代のうち
には、可能性のある子ど
もは実にたくさんい
ます。そのような
子どもたちに良い
指導や良い環境を
与えたいと考えて
います。だから、
私たちは、小学校
年代までは、なるべ
く多くの子どもたちに良
い環境を与えることを考えて
います。



トップにいかいかにしかけが価値
ではありません。

子ども自身がサッカーをしたいとい
う純粋な気持ちがいちばん大切であり、
そこには実にいろいろ価値がありま
す。一喜一憂しないで、ゆっくり見守り
しましょう。

私たちは、子どもたちがサッカーを楽
しみ、生涯にわたってサッカーを好きで
いてほしいと思っています。

Navi.2

スポーツ・サッカー
大好きっ子を育てよう

サッカーと学校や 生活のバランス

さまざまな仲間とのさまざまな経験が
幅を広げます。



子どものうちからいろいろな習い事を専門的に行い、そればかりに打ち込むような親子の姿を見かけます。それも本人ばかりでなく大人の期待から、過度に早期に専門化させ、大成させようという傾向が強まってきています。

サッカーでも、勉強や、学校の当番その他の活動を無視してサッカーだけに打ち込む子どもがいます。

大成するためにはそれだけに長時間取り組まなくてはいけない、人のやる以上の努力をしないとライバルに置いていかれると感じてしまふ、そんな気持ちがあるのかも知れません。

バランスが第一。

子どもの場合、サッカーの練習は、せいぜい1時間～2時間、週2～3回です。小さな子どもの場合には週1回で十分。それ以上は心身の負担になり、けがや精神の負担、ドロップアウトの原因と
なってしまう場合が
あります。大好き
だったはずのサッ
カーにうんざりし
て、もうやりたく
なくなってしまうか

もしれません。「燃え尽き症候群」と言われる状態です。それはとても残念なことです。

勉強は苦手で、クラスの運動会や球技会ではスター、それもいいですね。しかし、それだけしかやらなくていい、というだけではありません。代表選手、プロ選手は、決してサッカーばかりをしてきたわけではありません。

子どもが「サッカーだけしていいばいい」と他のことをしようとしなかつたら、それは正してください。ましてや、大人がそう仕向けるのは論外です。「うちの子はサッカーだけやっていいばいい」「あなただはサッカーだけしていいばいいのよ」なんて、決して言わないでください。

他の遊びをはじめ、さまざまな経験も大切。学校の当番も係も
しっかりやる。町や子ども会の行事にも参加する。家の手伝いもしっかりやる。そうすれば、みんながその子を応援してくれるでしょう。



Navi.2

スポーツ・サッカー
大好きっ子を育てよう

トライ&エラー

勝ち負け以外に大切なことがあります。

スポーツにおいては、勝敗がいちばんわかりやすい価値です。

自分の子どものチームに勝ってほしい、応援にすっかり熱が入り子どもたち以上に勝て大喜び、負ければっかり、これは自然な姿です。でも悔しさのあまり、自分のチームに声をかけるばかりでなく、相手チームに野次や文句を言う大人の姿はまれではありません。子どもたちもままりの悪い思いをしているようなことさえ見受けられます。

ある大会で、こんな光景を見かけました。あるチームが試合にリードしていましたが、追い上げられ、負けそうになってきました。コーチが「ボールを外にけり出せ！」と指示を始めました。子どもたちは言われたとおりにボールを外にけり出します。ボールが外に飛び出したら、そのチームの親たちはわざとボールをよけ、相手チームの子どもに遠くまで取りに行かせて時間を稼ぐと

いう徹底ぶりでした。

スポーツではベストを尽くすことが大切。子どもたちには勝ってうれしい、負けてくやしいという気持ちは大いに持つてほしい。負けん気をもって、目標をもって、がんばってほしいと思います。しかし、大人は冷静に、コントロールされた気持ちでいるべきです。

勝ちはもちろん成功経験につながります。成功経験は子どもが育つ力となります。

しかし、成功経験は試合での勝利だけからしか得られないものではありません。いろいろなことから得ることができず。そして負けて学ぶこともたくさんあるのです。

サッカーは、ルールは単純ですが、たくさんの要素がからみあった、複雑なスポーツです。勝敗には偶然も運もかわ



ります。そんなサッカーだからこそ、プロセスや内容が大切になります。

勝利至上主義になって、手段を選ばず勝とうと思えば、いろいろなやり方があるかもしれません。よく、「おまえはただけっておけばいい」「お前はそこいれればいい」などといった指示が聞こえてきます。自分の子どもがボールを持ったときに、ミスが怖くて「早くけて～！」などと悲鳴のような声をあげるお母さんもあります。子どもがせっかく日頃練習してきたことを試そうとしているのに、それはいいですね？

私たちは、「トライ&エラー」という言葉を使っています。まずトライ。失敗した次には成功するように。その積み重ねです。負けや失敗を恐れるあまり、トライをしない。これは子どもたちのサッカーには無用です。

勝ってうれしい、負けてくやしい。子どもが勝敗をうまく自分の中で消化し処理できるように、勝ちも負けも、次に向かってポジティブに自分の糧にできるように、大人はその手助けをしてあげべきです。大人のほうがムキになって、勝敗を適切に受け入れられないようでは困ります。

「勝たないと部員が入らない」「親がやめさせてしまうので、心ならずも勝ちを重視する考え方をとらざるを得ない」というクラブもあります。

指導者は、トータルでいろいろ考えて指導をしています。子どもが最終的に成長することこそが大切なのです。

ただし、指導者やクラブが勝利至上主義で勝ち負けだけの尺度でいる場合も残念ながらあります。

みなさんが考え方をしっかり持って、ぜひ、そのような指導者やクラブをチェックする機能となってください。